様式第２号(第７条関係)

会 議 結 果 報 告 書

令和４年10月17日

会議の名称	第２回舞鶴市第５期地域福祉計画策定懇話会
種別	□附属機関　■懇話会等
開催日時	令和４年10月17日（月）14時00分～
開催場所	京都府中丹広域振興局舞鶴総合庁舎３階　第１会議室
出席者	川島委員、田中委員、加藤委員、今安委員、佐藤委員、町田委員
議題	●協議事項 (1) アンケート調査結果について (2) ヒアリング調査結果について (3) 舞鶴市第５期地域福祉計画の骨子について (4) その他　今後のスケジュールについて
公開の区分	■公開
	□部分公開　［理由］
傍聴者数	０名
審議結果及び主な意見等	別添会議録のとおり
会議録の作成様式	□詳細　■要約
備考	

担当課	舞鶴市福祉部福祉企画課 TEL　0773-66-1011

第二回　舞鶴市第５期地域福祉計画策定懇話会

日時：令和４年１０月１７日（月）午後２時～
場所：京都府中丹広域振興局３階会議室
委員：　福知山公立大教授　川島典子氏
　　舞鶴自治連・区長連協議会 副会長　田中幸男氏
　　舞鶴市民生児童委員連盟 副会長　加藤喜美子氏
　　地域生活支援センターみずなぎ センター長　今安えり子氏
　　城北地域包括支援センター 管理者　佐藤葉子氏
　　NPO 法人ニュートラル支援員　町田弘樹氏
事務局：舞鶴市福祉部福祉企画課　係長　川手大輔
　　係長　玉川佳美
　　主事　三野槙子

欠席者：舞鶴学園　施設長　桑原位修氏
　　京都府中丹東保健所　福祉課長　西邑章氏
　　舞鶴市社会福祉協議会　地域福祉課長　山内　亨氏

　　舞鶴市福祉部　部長　杉本和浩
　　福祉企画課　課長　松本諭一

１　開会
　委員が集まったため、定刻通り開会。以後、川手係長により議事の進行。

２　挨拶
　福祉部長欠席のため、川手係長が代読。
　桑原委員、西邑委員、山内委員が欠席される旨を伝達。

３．協議
　進行を川島会長へ交替

（１）アンケート調査の結果について
資料１「地域福祉に関するアンケート結果」に基づき、玉川係長より説明

【主な意見】
■川島氏　とても分かりやすい説明だった。様々な自治体で計画の策定に関わったが、舞鶴市のようにきちんとアンケートを実施し、分析している自治体はなかなかない。事前に資料を見たが、舞鶴市の課題は「準都市的」だと感じた。都市型で最もよく見られる課題は、民生委員や自治会のなり手不足である。ほかの自治体でも見られるが、なかでも女性がいないのは大きな課題である。周りから嫌われたくなかったり、女性がやることで肩身の狭い思いをしたりするのを恐れている。しかし、女性のなり手を増やすことは、地域福祉にも役立つはずである。松江市で、女性が町内会長をやっているところがあるが、公民館の活動がさかんで、高齢者がすごく元気である。さらに舞鶴市の特徴は、外からやってくる人にオープンであることである。基本的には女性の方が時間があるし、案外、頼んでみたらやってくれる人がいるかもしれない。女性は地域の資源なのに、見過ごされていると思う。なぜなり手がいないかというと、男性に目を向けているからである。ひとりは嫌だけど、だれかと一緒ならやる、という人ならいるかもしれないので、アプローチするべきだと思う。
さらに、地域ごとの課題の比較グラフ（資料１ｐ10）を見ると、地域によって抱えている課題が違うことが分かる。西、東は都市型の課題、大浦と加佐は農村型の課題を抱えている。西と東は、昔から住んでいる人と新しく入ってきた人が入り交じる「新旧混合地区」である。加佐と大浦は、昔から住んでいる人が多い地区である。今回の計画は市全体が対象なので、地域ごとの計画は作れないが、社協では「地域福祉活動計画」という下部計画を作るので、最終的には地区別の細かい対応が求められると思う。加佐と大浦のアンケート結果を見ると、災害に対する不安が大きいことが分かる。全国的に見ても、防災に対する意識は高くなっている。防災については、公民館や町内会単位で進めなければいけないところもあるので、地域福祉のなかでも盛り込んでいく必要があるのではないかと思う。逆に、東と西では、高齢者の孤立という課題がある。前回と今回のアンケート結果の違いは、コロナの影響があることである。さらに、「希薄化」や「無関心」ということばも増えている。もともと希薄化や無関心化が進んでいるのに、コロナになってさらに、孤立しがちな人がより孤立しがちになった。それは、高齢者だけでなく、子育てする親などもそうで、孤立することは、重層的な課題が生まれることにつながる。地域の課題として「複数の課題を抱えた家庭の増加」を掲げている人が４割いる（資料１p1）ことからも、第４期計画のサブタイトルにもある「つながり」という言葉を、今回の計画のなかで大切にするべきだ。

（２） ヒアリング調査結果について
資料２「ヒアリング調査結果」に基づき、川手係長から説明。

【主な意見】
■川島氏　アンケート調査だけだとこぼれおちる要素があるので、ヒアリング調査と両方行っているのはすばらしいと思う。各分野でヒアリングをしてもらっているので、課題が明確になっている。まず「高齢」のまとめ（資料２ｐ３）を見ると、山間部の交通弱者の課題が大きいとある。これは中山間地域共通の課題である。例えば福知山市で、合併した３町に行くと、バスすら走っていない状況である。困るのは、女性でそもそも免許を持ってない人や、後期高齢者になり免許を返納した人だ。交通弱者は買い物弱者になりがちで、生鮮食品でなく日持ちする缶詰などを買うので、不健康になりやすく要介護状態になりやすい傾向がある。交通弱者の課題も計画に盛り込んでほしい。さらに、サロンの後継者がいないこと、独居高齢者の問題についても全国共通である。IcT や、AI、ロボットを利用した地域福祉も考えないと、つながりは保てないのではないか。前回の地域福祉計画の「計画の体系」で、「孤立防止」の部分で「IcT の利用」を付け加えてはどうか。
さらに、「障害」のヒアリング結果を見ると、制度の狭間の問題があること、障害者の高齢化、生活困窮に陥りやすい、犯罪を犯しやすい、という点も、普遍的な問題である。
さらに、「子ども」のヒアリング結果を見ると、子育て支援においても「まいココ」のような IcT や SNS を通じた支援が必要だと感じる。舞鶴市は外からの人が多いので、地縁がない、孤立しやすい人を支援する必要がある。
さらに、「生活困窮」については、コロナ禍で間違いなく増えている。社協の貸付金を借りている人が、コロナ禍で５０倍くらいに増えているという。さらに問題は、女性の自殺者が非常に増えていることだ。非正規雇用は女性が多いので、不況でクビを切られやすい傾向がある。その結果、食べて行けずに自殺してしまう。舞鶴でもそういう事例が出てきているはずである。生活困窮は死につながるので、計画に盛り込まないといけない。
最後の「地域福祉」については、まさに計画の要である。コロナ禍でイベントが中止になりがちだが、オンライン開催をするなど、なにかしら工夫をして、つながる努力が必要である。まとめの３番目に、新しいコミュニティもつながりとして考える、とあるので、この観点も計画にも入れられるといいな、と思う。さらに、福祉教育については、前回の計画には入っていないが、今回はあってもいいかと思う。社会福祉協議会の PR も大切である。大学生に講義しても、社協の存在すら知らない子も多い。地域福祉を推進する実働部隊は社協なので、何をやっているかを表に出すことが大切だ。その一方で、社協はコロナ対策などでてんやわんやになっていて、他のことに手が回らないという状況もあるので、福祉専門職や民生委員、自治会等が支えていく必要がある。私からのコメントは以上である。
みなさんからも、ヒアリングやアンケートの結果を踏まえ、ご意見をいただけないか。

■今安氏　アンケート結果の障害分野でいうと、そもそも課題として認識されていないということ、当事者との関わり方がわからないことが地域の課題であることを改めて感じた。障害のある人のことを相談できる場（包括支援センター）があるということを、私たちがもっと PR しなければいけない。
アンケートでは「障害者の孤立・集える場所がない」という選択肢を作っているが、質問の意図が伝わりにくいと思うので、文言を検討してもらえば良かったが…。

■佐藤氏　城北地域包括センターの管轄でいうと、民生委員、自治会のなり手については、この１０年くらいなかなか改善しない。近所付き合いが希薄化するほど、なり手が少なくなる。西舞鶴は、旧来の町ではあるが、高齢の独居世帯が増え、近所付き合いは希薄になりかけている。防災については、地域包括支援センターの対応はまだまだ考えてきれていない状況。個別支援計画を策定しているので、一緒に取り組めたらなと思う。生活困窮の相談が急増しているのは、ここ１年で顕著である。

■川島氏　高齢女性の生活保護受給率は高い傾向にある。それは、年金受給率にジェンダーギャップが大きいからである。今の高齢女性の世代は専門主婦が多く、厚生年金を受け取ることができない。国民年金が任意だった時代もあるので、夫が亡くなり、遺族年金しか受け取れなくなる人もいる。特に持ち家がないと大変である。地域包括支援センターは業務が多忙で、センターだけで回していくことはできない。専門職だけでなく、住民が主体的に動いている地域は、うまく回っている。例えば、住民が主体となって、地域で介護保険サービス外のサービスを作っているところがある。独居高齢者で、電球の取り換えや植木ができない人を有償ボランティアの人が手助けしている地域がある。そういうことが住民主体でできないなら、行政やセンターのリードでできるようにしないと、専門職の人だけではとても回らない。災害の話が出たが、防災については住民の組織と連携しないといけない。

■町田氏　まず質問だが、民生児童委員、自治会長になる人が少なくなった理由はなぜか。人口が減ったからか。
　→川手　　リーダーとして手を挙げる人がいないということだと思う。
　→田中氏　私は９年３期民生児童委員を務めているが、自身が高齢化しているにもかかわらず、仕事量が増えており、負担が増してきていると感じる。それが、なり手がいない理由ではないか。地域福祉の担い手がいなくなり、活動が衰退してきているので、南福祉協議会（地区社協）を立ち上げて、また盛り返そうという動きが私の地域では出始めている。
　→川島氏　舞鶴では地区社協の活動が盛んなのか？
　→川手　　舞鶴市内に地区社協があるのは南福祉協議会だけである。

→川島氏　地区社協の活動を活発化させることが大切かもしれない。地区社協とは何かというと、社協は、全国、都道府県、市町村にあり、ここまでは、専門職がいる組織である。さらにその下部組織として地区社協があり、これは完全なボランティア組織である。市社協と連携して、自分たちが住んでいる町の地域福祉を推進している。市町村によって、活発なところも、そうでないところもある。もし舞鶴市で、地区社協の活動が活発でないとしたら、そこを盛り上げると、地域のボランティア力、自治力が上がっていくはず。ちなみに公民館活動は舞鶴市でさかんなのか？

→田中氏　盛んである思う。

→川島氏　公民館とも連携して、全域に活動を広めていくのが大切である。専門職の数が足りないので、トップダウンだけではなく、ボトムアップで上げていかないと、全体が盛り上がらない。地域住民の方の力が大切なので、そこを組織化していくことがとても大事。地区社協の活動をさかんにすることで、地域力が全体的に向上していくはずだ。

また、NPO 法人も住民力のひとつである。医療は国主導で行われるが、福祉は行政と民間が共同で担うよう求められていて、社協も NPO も重要な役割を担っている。行政は何をするにも時間かかるが、NPO 法人なら、制度のはざまにある、行政では救うことが難しい問題にも対応できる。NPO は「橋渡し型ソーシャルキャピタル」とされ、外部から入ってくるのでしがらみがなく自由に活動でき、地域が活性化することが期待できる。

■町田氏　そもそも引きこもりが起こるきっかけは、学校や職場など外の社会だが、家庭内の問題が絡むことで長期化してしまう。高齢者の介護や、生活困窮の問題、家族間の不仲などの重層的な課題が絡むことで、本人が、その問題は自分のせいで起きていると自己否定してしまう。中でも難しいのが、障害者手帳を持つまでにいかないグレーゾーンの人たちだ。例えば就労先にしても、その求人は、外国人に向けられている。言葉が不自由でも、エネルギーやバイタリティーがあるからだ。引きこもりの人は、コミュニケーションに課題があるので、経済的な社会復帰は難しくなっている。職員の人出不足も深刻だが、引きこもり支援のボランティアはメリットを感じにくいので、募集が難しい。うちの居場所にきている人は、なぜ来ているかというと、外に出ることで親が安心するというメリットがあるからだ。ボランティアする人が、どんなメリットを得られるかを PR していかないと、なり手不足は解消できないと思う。

■加藤氏　民生児童委員のなり手がなぜ少ないかというと、仕事をしている人は引き受けてくれないからだ。定年退職した高齢者が、高齢者を見ることになる。

アンケートをみると、加佐や大浦で災害に対する意識が高いが、私が住んでいる加佐地域では、かさあげをしたり、堤防を作ったりして、川から上がってくる水では浸からな

くなった。民生委員や自治会長ら地域のリーダーどうしが連携すれば、地域全体の意識が高まるので、しっかり関係を引き継いでおく必要がある。
交通弱者の問題は深刻である。免許がないと、健康が衰えるし、出かけられないので精神が落ち込んでしまう。
つながりの大切さも実感している。コロナで中止になっていたイベントを今回、３年ぶりに実施することになったが、参加者が集まりすぎて困っているくらいだ。みんなつながりの場を待っているので、コロナを言い訳にせず、なんとか工夫して地域を盛り上げていく必要がある。

■田中氏　まず、これだけの資料を手間暇かけて作ってくれた福祉企画課の方に感謝。お願いしたいのは、民生児童委員の担い手確保に向けてもっと行政も動いてほしいということ。今回の一斉改選で、南民児協でも欠員が多く、定例会に顔を出して呼びかけをしたが、そういう動きを行政も表にでて行ってもらえるとありがたい。

（３） 舞鶴市第５期地域福祉計画骨子案について（１５：４１～）
資料３「舞鶴市第５期地域福祉計画骨子案」に基づき、川手係長から説明。

【主な意見】
■川島氏　前回の計画にあった「孤立防止」が、基本理念からなくなっている。「新たなつながりによる孤立防止」として項目を作ってもらえないか。そこに IcT の要素を盛り込んでもらいたい。ほぼ前回と同じ内容になっているので、せっかくなので変えてほしい。せっかくニーズ把握をしたのに、前回と一緒ではもったいない。

（４） 今後のスケジュールについて
資料４「策定スケジュール」に基づき、川手係長から説明。

４．事務連絡
次回懇話会の日程については、１２月２６日（月）午後２時を提案し、出席委員からは異議なしと承認された。

■川島氏　懇話会はあと１回しかない。当日にいきなり素案を見せられても意見をなかなか言えないので、事前に送ってもらいたい。

５．閉会　午後３時５１分